

# 弓道部部報

(新渡戸泰記)

神代の遠き古へより降つて吾が大和民族の國史及び國民性の上に大きな跡を止めて來た弓も今では武技としての其實効を全く失つてしまつて言はゞ一種の體育運動具となつてゐる。それで現代の弓道は現代の一般青年の感興を引いてこそ始めて其隆盛を期し得るので、有閑階級の消閑餘技と認められるやうでは心細い限であつて、もつと弓道は一層廣く、吾等青年學生間に行はれなければならぬ。それなのに多くの學校で弓道部が置かれあるが之に屬する部員は他の運動部に比べて何時でも少數で従つて亦劣勢だそうだが、之は窮屈な稽古や面倒な儀禮を嫌つて單に娛樂として弓をやらうとする證據と見られる。勿論弓射ほど姿勢をやかましく言ふものは他にも比類が少い。どの運動でも姿勢の崩れることは禁物で如何程變化しても合理的であるべきは當然とはいへ射の場合のやうにさう端正なものではない。適當な弓を眞面目に射れば弓が運動になるかならぬか

といふ疑惑は自然に消滅するに相違ない。且つ又弓では胸部も腰部も伸長するによつて弓を嗜む老人に背や腰の曲つてゐるものは極めて少なく。これらは著明な事實であつて老境になつて弓に親しんでゐることの出来るのはその爲である。一般に日本人は屈筋を多く働かせる習性を持つ結果伸筋の發達の悪い上に脊柱各部の前屈を起し易く、早老的の體軀となる傾向をも弓道は克く豫防するのであるからして大いに岩中生諸君にお獎め致します。最後に弓道部の消息を御知らせ致します。

一、五月武徳會岩手支部弓道大會に日野岳・阿部(孝)・新渡戸参加す。場所盛岡驛前近江屋旅館弓場にて。

二、振武大會には殘念ながら参加せず。

三、本校弓道部發會式。

式次第一、個人競射 個人優賞

二、學年競射 一等 三乙 小田島勝郎

三、餘興 二等 五乙 阿曾 沼學

1. 金的 三等 五甲 日野 岳浩

2. 扇 的

弓道部は餘りに振はぬ様に見えるけれども猛練習の後本年九月には仙臺に於ける東北中等弓道選手權大會に参加する意氣込である。